



地震



地震発生時の避難行動

地震はいつどこで発生するかわかりません。屋内にいる場合と屋外にいる場合では、注意すべきことが異なります。

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら、火の確認をすみやかにいきましょう(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物からカバンなどで頭を保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりとつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

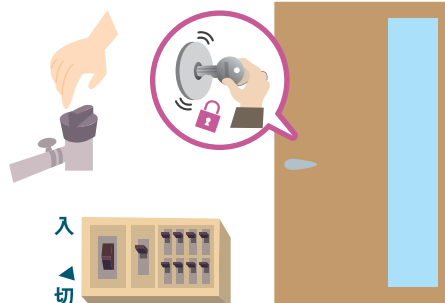


海岸付近

高台へ避難し、津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは、海岸に近づかない。

家を離れる際の注意点

- 家を出る時には忘れずにガス・水道の元栓を閉め、電気のブレーカーはOFFにする。(二次災害防止)
- 空き巣等の被害を防ぐ為、家の戸締りをする。(盗難防止)
- 災害用伝言ダイヤルなどを活用して自分の安否確認を残す。





大地震が発生したら…

大地震発生時にとるべき行動ポイントをまとめました。地震発生からの時間は目安です。災害時の状況に応じ柔軟に対応しましょう。

地震発生からの時間	とるべき行動	
3分程度	自分の身を守る 激しい揺れは数十秒程度でおさまります。落下物や倒れてくるものなどから、身を守りましょう。	
5分程度	火の始末・避難経路の確保 揺れを感じた時にすぐ火の始末をすると、揺れによって火傷を負う可能性があります。あわてず大揺れが収まってから消火しましょう。また、揺れによって建物がゆがみ、ドアや窓が開かなくなる事が考えられます。出口の安全を確認し避難経路を確保します。その際は、割れたガラスなどに注意し、厚手のスリッパやスニーカーを履きましょう。	
10分程度	家族の安否確認 家族の無事を確認します。災害時には携帯電話は使用できなくなる恐れがあるため、あらかじめ連絡方法や集合場所など、事前に家族内で決まり事を作っておくと良いでしょう。	
10分～	近所の安否確認・消火・救出活動 近所で家屋が倒壊して埋もれている人はいないか、火災は起きていないか確認しましょう。今いる場所が、安全な場所か判断し、必要に応じて避難行動を取るようにしましょう。火事や助けを求める人がいたら、隣近所で消火・救出活動を行いましょう。ただし、自分たちの手に負えない場合は、消防署・警察署に連絡したり、避難を優先しましょう。	
半日～3日	情報収集・避難 デマに惑わされないよう、ラジオやテレビ等で正確な情報を入手するようにしましょう。家が無事で、地域に火災の危険がなければ、あわてて避難する必要はありません。火の手や煙が近くに見えたり、その場に危険を感じたときには、すぐに最寄りの避難所に避難します。	



地震

災害時の情報

風水害

地震

避難・日ごろの備え

ハザードマップ

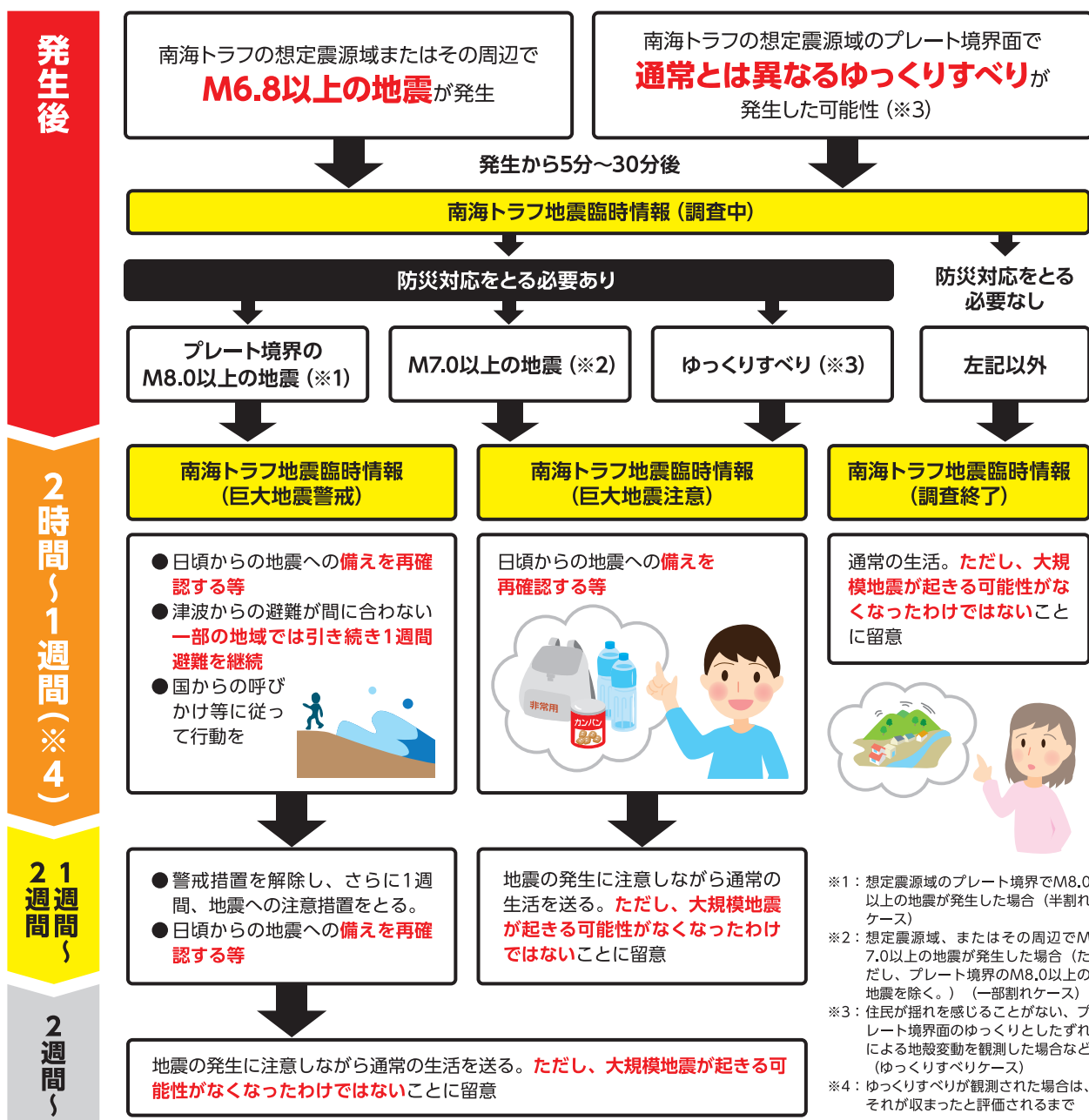


南海トラフ地震関連情報

南海トラフで発生するとされる巨大地震（東海地震、東南海地震、南海地震）は、約100年～150年程度の周期で繰り返し発生しています。

南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合に気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。政府や地方公共団体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとりましょう。

地震発生後の防災対応の流れ



出典元：内閣府・気象庁「南海トラフ地震 -その時の備え-」



地震の揺れ(震度)と想定される被害

災害時の情報

風水害

地震

避難・日ごろの備え

ハザードマップ

震度 4

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることもある。

震度 5弱

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

震度 5強

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

震度 6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

震度 6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩落が発生することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

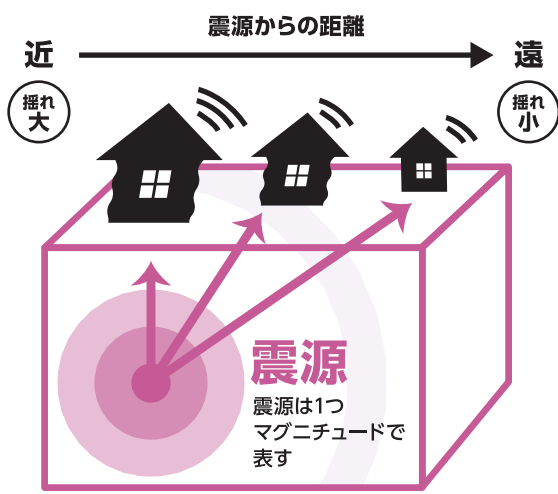
震度 7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

地震の規模(マグニチュード)とは

「マグニチュード」は、震度とは違い、地震そのものの大きさ(規模)を表した数値となります。

マグニチュードの小さい地震でも震源からの距離が近いと地面は大きく揺れ、「震度」は大きくなります。逆にマグニチュードの大きい地震でも震源からの距離が遠いと地面はあまり揺れず、「震度」は小さくなります。



震度は場所によって異なるため、地域によってそれぞれ数値が異なる



地震

災害時の情報

風水害

地震

避難・日ごろの備え

ハザードマップ



液状化とは・・・

液状化現象とは、地震が発生した際に地盤が液体状になる現象のことです。液状化は、主に同じ成分や同じ大きさの砂からなる土が、地下水で満たされている場合に発生しやすいといわれています。

地震発生で繰り返される振動で、地中の地下水の圧力が高くなり、砂の粒子の結びつきがバラバラとなって地下水に浮いたような状態になります。

液状化が起こることにより、家や電柱などが傾いたり、橋や堤防が崩壊したり、沈下するといった被害が過去にも起きています。

堤防が沈下することで、津波の影響を受ける可能性もあります。

液状化の流れ



液状化の実例(東日本大震災)



千葉県浦安市 (平成23年3月)



宮城県白石市 (平成23年4月)

提供：財団法人消防科学総合センター



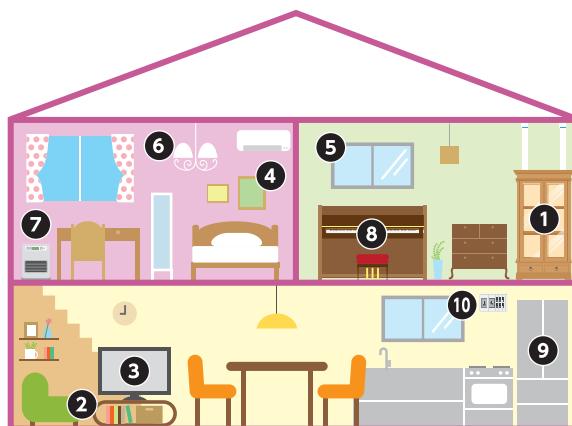
地震への備え

家の中の安全対策

家の中には地震のときに危険なものがたくさんあります。室内の家具が倒れ、いざ避難しようとしたときに出口をふさぐこともあります。

家具を固定したり、配置場所を変えたりするなどの安全対策が必要です。

まずはできることから実践し、見直ししながら安全性を高めていきましょう。



①タンス・棚・書庫

十分な強度のある柱や壁などにL字金具などで固定しましょう。支え棒を使用する場合は壁側に設置し、床との間に免震ゴムを手前側（壁の反対側）に入ると倒れにくくなります。特に二段重ねのものは、つなぎ目を金具などで固定しましょう。

②本棚

すきまがあると危険なため、ブックエンドなどを活用し、本がすべり落ちないように、バンドをかけるなど対策しましょう。

③テレビ

家具の上などには置かず、できるだけ低い位置に固定して置きましょう。

④額縁

チェーンや金具でしっかり固定し、ガラス面には飛散防止フィルムを貼るとより安全です。

⑤窓

ガラス面には飛散防止フィルムを貼りましょう。

⑥照明器具

つり下げ式の照明器具は、チェーンと金具で数か所固定しましょう。

⑦暖房器具

ストーブは耐震自動消火装置付きのものを使用しましょう。燃えやすいものは周囲に置かないようにしましょう。

⑧ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻き付け、太めの柱に取り付けた金具に連結して、しっかりと固定しましょう。脚には専用のすべり止め器具を付けましょう。

⑨冷蔵庫

転倒防止用の専用ベルトや針金を通して、壁などに固定しましょう。

⑩感震ブレーカー

電気火災対策として感震ブレーカーの設置をしましょう。

※生命維持装置に直結するような医療用器具等を設置（使用）している場合、平時から停電に対処できるようバッテリー等を備えておいてください。また、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。

家のまわりの安全対策

屋根

不安定なアンテナや屋根瓦は補強しておきましょう。

ブロック塀・門柱

しっかり点検をし、補強をしておきましょう。

ベランダ

植木鉢などの整理整頓をしておきましょう。

窓ガラス

飛散防止フィルムを貼りましょう。

プロパンガス

ボンベをしっかり鎖で固定しておきましょう。

家のまわりも日頃から安全に
対策をしておきましょう

POINT